ノイロメトリーと臨床検査諸検索

(第65報)

—宮沢式ゲルシャワーロケットのノイロメーター

計測値に及ぼす影響(その1) —

東京都 成宮 芳三郎

Neurometry & its references on clinical tests

(The 65 th report)

—Influence of Gel Shower Rockets upon the
measured values with a Neurometer—

Y. Narimiya, M.D. (Tokyo)

The influence of Gel Shower Rockets (by Mr. Y. Yiyazawa) application upon the human body was studied for 70 persons. The investigation was made in the possibility of stabilization on the autonomic nerve unbalance by checking the index from the measured values by a Neurometer. The application to 70 persons resulted in observing tendencies to restore autonomic nerve unbalance and its restoration to physiological range, chronic diseases especially adults' diseases were more or less relieved by the long term and continuous application. The confirmation of clinical effects with those accumulation is a subject being left for further investigation in the future.

I ま え が き

シュレジンガーの「生命とは量子力学という神の手になる至高芸術品である」という価値ある予言が医学理論としては1962年ノーベル医学術賞に輝くドイツ学派の分子生理学として登場したことは万人周知のところである。医療と分子生理学のドッキングは実験研究の域を出ていなかった。量子力学の医療への応用は高度の分子生理学の知識が必要であるばかりでなく素粒子の理論の理解を前提としていた。

宮沢頼孝理工・薬学士試作のゲルシャワーロケット(以下M・GSR)を主としてノイロメーター計測値を指標として人体に及ぼす影響を調査したのでそのあらましを報告する。

II 調 査 法

宮沢頼孝理工・薬学士により量子力学の医療への応用として試作された、200mgゲルマニウム・N型ブルー半導体R物質とサンブラ又は銅の電気的良導体で加工のM・GSRを中谷義雄博士の良導絡理論により、全身基本調整点(F₄₄₄肝俞、F₄₄₀脾俞、F₄₃₄腎俞左右計6点)VM11(中脘)F₁₆・F₂₅・F₃₉合流点(三陰交)等局所反応良導点に貼用、(文献1~8)LC型ノイロメーター(大阪・ノイロ医工KK製)のノイロメーター計測値を指標として人体に及ぼす影響を調査した。成宮内科外来患者、東郷健康長寿会高年令者有志、広島・長崎原爆被災者等70例を調査対象とした。本報記号、

表示等は筆者の前報のそれに同じ。(文献12~75)

Ⅲ 調査成績

(1) 長期装用者のノイロメトリーと血液学的、肝機能検査所見

82才女性(慢性胃炎)M・GSR 7ケを3年間装用中、56才女性(低血圧症、慢性胃炎)M・GSR 1ケ3年6月装用中の2例のノイロメトリーは表1・図1・2に示す結果を得た。年令を考慮すればおおむね正常所見であって長期装用による副作用所見は見られなかった。

(2) M・GSR 1ケ装用30分前後のノイロメトリー。

1975年7月12日高温、高湿時、87才・86才・85才・81才・80才・79才・76才・75才各1名の高令者13名と58才・42才・38才・34才・33才各1名の中年者5名、対照として27才の女性2名につきM・GSR 1ケ装用後のノイロメトリーは図3に示す結果を得た。対照に比しノイロメーター計測値のバラツキ減少、自律神経安定化の傾向が見られた。

(3) M・GSR 2ケ装用前後のノイロメトリー。

1975年8月9日、86才より42才までの14名、対照として29才女性1名にM・GSR 2ケ装用、30分前後のノイロメトリーは図4に示す所見を得た。高温高湿期でノイロメーター計測値のバラツキが多く生理域を外れていたものが多かったが、バラツキ減少、生理域復帰の傾向が見られた。

(4) M・GSR 3ケ装用前後のノイロメトリー。

1975年9月13日86才より43才までの10名と対照として23才1名の11名につきM・GSR 3ケ装用、前後のノイロメーター計測値の移動を指標として検査すると、図5に示す所見を得た。残暑高過多湿期で中年より高令者にはノイロメーター計測値の生理域を外れているものが多かったが、計測値のバラツキも減少、生理域復帰の傾向が見られた。

(5) M・GSR装用の血圧測定値に及ぼす影響。

1975年10月11日、86才より31才までの年令の

27名にM・GSRを1ケ装用、1時間前後の血圧測定値は表2に示す結果を得た。対照の非装用者に比し高血圧値は低下の傾向が見られた。56才と66才の女性の高血圧患者にM・GSR・1ケ装用、無投薬のまま血圧測定経過を見ると表3・4に示す所見を得た。

(6) 原爆症11名に対しM・GSR 2~3ケ装用前後のノイロメトリー。

1975年10月10日、原爆症11名に2~3ケ装用2~3時間前後のノイロメーター計測値の移動は表5、図6・7・8に示す結果を得た。ノイロメーター計測値のバラツキが各例について減少、生理域に復帰し自律神経安定化の傾向が見られた。

(7) 難症21例のM・GSR長期装用、前後のノイロメトリー。

高血圧症3例、低血圧症4、動脈硬化症1、気管支性喘息2、慢性胃炎2、胃潰瘍2、糖尿病1、冠不全1、肝硬変症1、胃ガン2、乳ガン1、うつ病1例、計21例。重症・難症例で大学病院等、現代西欧医学最高水準の治療を受けたが、自覚症状の好転せぬ症例に窮余の一策としてM・GSRを1~2ケ装用、長期間の経過をノイロメーター計測値の移動として観察してみたところ表6、図表9に示す結果を得た。ノイロメーター計測値のバラツキの減少と生理域内復帰が各例に認められ自律神経安定化の傾向が見られた。疼痛の軽減解消はよく見られ、自律神経失調症状の軽減はよく見られるが、ガン性疾患や諸難症の根治は達成されないが自覚症状の軽減は各例につき程度の差はあったが観察された。

Ⅳ 考 案

物理学的に半導体の特性を再確認し、分子生理学的には人体の特性を検索し、人体の半導体の一面に半導体ゲルシャワーと接合させたのがM・GSRである。M・GSRと中谷義雄博士の良導絡理論を活用して高令有志に対する予備実験、難病処理、原爆症等に対し臨床検査を重ねてみた。光合成の過程が解明され電子の転移・部分的な人工的再現の成功は蛋白質・酵素が半導体である事実をも解明した。エネルギー伝達は放射線分光学によって、また光抵抗と光電

素子の半導体装置は同じく人体組織のエネルギー伝達について解明に役立った。いずれも半導体か生物の世界でも大きな役割を果たしていることが判明してきた。(半導体物語・ポリソフビヤトノフ・東京図書館)

M・GSRからもし電子的エネルギーが連続的に放出されるとすれば、エネルギーの一般法測からは相互に変換することができ、イオン交換等能動輸送や、細胞の生存にとって必要な細胞内成分の維持に必要な光合成反応の消費エネルギー等の生命現象に必要なエネルギー補充に有効な働きをするが故に生命体の活性化が起る可能性を期待できる。

高年令者、原爆被災者、難症70例にM・GSRを貼用、ノイロメーター計測値の移動を指標として調査するとバラツキの減少と生理域内復帰自律神経安定化の傾向が認められた。広島、長崎原爆被災者11例については3年余にわたり調査したので、そのノイロメーター血液学的生化学的検査所見については次報で発表する。

岩佐博教授のラッテによる動物実験によればM・GSR背中植込み時における生体の観察で、白血球、赤血球数、血色素は対照に比し好調であり、背中植込み時における実験的肝障害ラッテの観察ではGUT・GPTは対照に比し好調であった。但し腫瘍細胞移植による増殖状態の観察やAH109A腫瘍足移植後14日目外科的切断と同時M・GSR腹帯使用による観察やM・GSR腹帯使用におけるYS腫瘍細胞移植の観察では対照群に比し有意の差は認められなかった。M・GSRは長期使用により表面が黒色化したり貼用部に円形の赤色小斑点が出現する現象が原爆症や、ガン性疾患には見られた。体内異種蛋白の体外に排泄されたものと思われるが、注目すべき生体反応である。疼痛の軽減、解消はよく見られ、自律神経失調症状の軽減、解消はノイロメーターで生理域復帰によっても実証できようが、更に難病成人病には治療は望めなくとも、症状の軽減には補助療法として試みる価値がありそうである。

V ま と め

成宮内科外来難症患者、東郷健康長寿会高年令者有志、広島、長崎原爆被災者等70例につい

表1

表1 ロケット長期使用者の血液学的・肝臓検査の調査成績

検査項目	3年6月1日	3年7月	正 常 値
白血球数	7,900	6,800	4,000-8,500
赤血球数	459万	405万	410-530万
ヘモグロビン	13.5g/dl	12.1	12-16
ヘマトクリット	39.7%	37.8	40-55
平均赤血球容積	87μl	86	80-99
赤血球容積分布幅	39.8μl	37.5	27-31
血色素濃度	33.7%	32	32-36
白分 状 数	6%	5	3-6
血中 分 状 数	45	45	45-55
肝臓 貯 留 率	1	2	1-3
肝臓 貯 留 率	0	1	0-1
肝臓 貯 留 率	43	41	25-40
肝臓 貯 留 率	5	6	4-6
ビリルビン	0.4mg/dl	0.6	0.4-0.8
アルブミン	4.2g/dl	4.2	4.0-4.5
グロブリン	2.8g/dl	2.8	2.0-3.0
コレステロール	200mg/dl	200	150-250
尿酸	4.2mg/dl	4.2	3.0-4.0
尿素窒素	13.5mg/dl	13.5	8.0-12.0
クレアチニン	1.0mg/dl	1.0	0.8-1.2
肝臓 貯 留 率	1.83	1.56	1.2-2.4

図1

図2

て量子力学の医療への応用として宮崎頼孝、薬・理工学士により試作されたゲルシャワーロケット装用の人体に及ぼす影響をノイロメーター計測値の移動を指標として調査したところパラツキ減少、生理域内復帰自律神経安定化の傾向が認められた。

図3

図4

図5

表2 M・GSR装用1時間後の血圧測定値の移動
(1975.10.11. 東郷神社参集殿)

番号	性	年齢	最高血圧前	最高血圧後	最低血圧前	最低血圧後	
(1)	♂	86	160	152	80	60	ロケット1ヶ装用中
(2)	♂	83	150	130	80	80	
(3)	♂	55	170	152	100	82	ロケット1ヶ装用中
(4)	♂	73	150	140	80	70	広島原爆
(5)	♂	54	110	110	80	70	
(6)	♂	75	160	140	80	80	
(7)	♂	78	150	130	90	80	
(8)	♂	74	160	140	100	90	
(9)	♀	77	160	150	90	80	気分ヨクナッタ
(10)	♂	70	200	180	106	100	
(11)	♂	49	110	106	80	80	
(12)	♂	69	150	140	100	100	
(13)	♂	55	110	110	80	80	
(14)	♀	77	120	120	100	80	
(15)	♂	86	120	130	90	80	
(16)	♂	72	150	160	90	90	
(17)	♀	52	100	102	70	70	
(18)	♀	75	170	150	100	100	
(19)	♂	84	130	122	80	72	
(20)	♀	31	130	110	80	70	長崎ニテ原爆
(21)	♂	92	150	140	90	80	
(22)	♂	80	190	150	90	90	
(23)	♂	82	160	140	90	80	
(24)	♂	81	150	140	80	80	ロケット1ヶ装用中
(25)	♂	81	140	130	100	90	ロケット1ヶ装用中腰痛ヤワラ
(26)	♂	73	140	120	100	90	
(27)	♂	48	94	92	70	72	胸サワギナクナリ気分ヨシ
平均			143.8	132.8	92.4	81.3	

対 照

(28)	♂	46	130	130	94	90	ロケット2ヶ装用中
(29)	♂	63	140	140	90	90	ロケット2ヶ装用中
(30)	♂	45	142	140	88	90	
(31)	♂	50	156	150	100	102	
平均			142	140	93	93	

表 3 (56才) 女性 (高血压症)

月 日	最高値	最低値
1月16日	165	110
19日	160	100
26日	140	96
28日	140	90
31日	140	90
2月3日	138	86
10日	140	90
18日	135	86

表 4 (66才) 女性 (高血压症)

月 日	最高値	最低値
50年11月10日	180	80
11月21日	150	80
26日	150	80
12月3日	160	90
10日	160	80
17日	150	80
24日	160	80
51年1月6日	160	90
13日	160	90
21日	160	90
28日	150	90
2月2日	160	90
4日	150	80

図 7

図 8

図 6

図 9

表 5

番 号	氏 名	性	年 令	前 後	ノ 最 高 値	イ 最 低 値	ロ メ ト リ ー 平 均	+	○ (興) (生理域)	- (抑)
1		♀	46	(前 後	40 60	0 5	13.1 15.8	5 3	10 16	9 5
2		♂	53	(前 後	50 50	0 5	20.8 19.8	2 2	16 17	6 7
3		♂	39	(前 後	50 30	0 5	19.8 15.4	4 3	14 21	6 0
4		♂	50	(前 後	50 40	0 10	21.4 26.6	5 3	12 19	7 2
5		♀	48	(前 後	30 20	0 5	13 11	2 1	14 23	8 0
6		♀	74	(前 後	50 30	0 0	13.4 12.9	5 1	11 19	8 5
7		♀	54	(前 後	70 30	0 5	15.4 16.3	3 2	13 21	8 1
8		♀	48	(前 後	20 30	0 10	6.9 18.5	4 3	11 19	9 2
9		♀	50	(前 後	50 40	0 0	13.1 13.5	2 4	12 20	0 0
10		♂	52	(前 後	150 55	20 10	64.3 26.9	6 4	7 19	11 1
11		♀	52	(前 後	70 50	0 10	21.3 21.2	4 5	8 19	12 0
					平 均		(前 後	11.8 19.9		

表 6

番 号	氏 名	性	年 令	病 名	月 日	最 高 値	最 低 値	平 均 値	+	○ (興) (生理域)	- (抑)
1		♂	25	慢 性 胃 炎	(5月16日 6月14日	60 30	10 10	25.4 15.4	7 0	4 24	13 0
2		♀	78	胃 ガ ン	(5月20日 6月13日	0 40	0 5	0 20.4	・ 3	・ 17	・ 4
3		♀	75	冠 不 全	(6月12日 9月6日	50 50	0 5	18.8 19.2	1 2	12 18	11 4
4		♂	55	高 血 圧 症	(2月9日 6月4日 9月3日 10月21日	0 50 20 20	0 20 0 5	0 37.9 12.9 9	・ 3 2 0	・ 17 22 24	・ 4 0 0
5		♀	54	乳 ガ ン	(2月10日 6月4日 9月3日 10月22日 3月22日	0 50 20 20 30	0 20 10 5 5	0 27.5 21.1 11 12.1	・ 3 0 0 0	・ 21 24 24 23	・ 0 0 0 1

6	♀	40	胃 ガ ン	7月8日	50	10	19.1	5	14	5
				11月12日	10	5	7.1	0	24	0
7	♀	27	気管支性喘息	3月25日	130	0	20.2	3	0	21
				4月27日	100	5	34.4	1	14	9
				6月14日	20	0	13.5	0	23	1
8	♂	49	高 血 圧 症	4月6日	100	0	39.8	5	6	13
				6月15日	40	10	18.9	2	20	2
				7月25日	80	30	52.5	4	20	0
9	♀	43	低 血 圧 症	3月16日	40	0	11.6	9	5	10
				6月14日	50	5	19.6	2	13	9
10	♀	45	低 血 圧 症	5月11日	80	0	27.1	8	4	12
				6月16日	60	10	33.5	1	20	3
				10月6日	10	0	6.6	0	22	2
11	♀	25	気管支性喘息	5月14日	50	0	18.1	5	7	12
				6月18日	30	0	19.8	0	21	3
				9月13日	40	0	21.7	7	17	0
				9月24日	30	5	18.9	0	22	0
12	♂	61	慢 性 胃 炎	4月10日	120	25	49	4	11	9
				6月22日	30	10	21	2	21	1
				9月17日	20	10	9.2	0	23	•
13	♀	67	胃 潰 瘍	4月28日	100	20	64.8	6	10	8
				6月28日	40	10	21.5	6	18	0
14	♂	56	糖 尿 病	4月21日	80	30	60.8	9	10	5
				6月24日	50	30	43.7	2	22	0
15	♂	39	胃 潰 瘍	3月16日	55	10	34	5	13	6
				7月23日	90	30	48.3	1	20	3
				9月21日	50	5	21.7	2	20	2
16	♀	54	肝 硬 変 症	5月9日	100	10	49.5	6	13	5
				7月23日	30	10	18.3	0	24	0
17	♂	61	高 血 圧 症	4月20日	110	30	70	6	10	9
				7月23日	100	20	43	9	13	2
18	♀	31	低 血 圧 症	4月17日	70	0	21.7	6	6	12
				8月3日	40	20	31.2	1	23	0
				11月13日	10	5	6	0	22	2
				1月9日	0	0	0	•	•	•
19	♀	27	ウ ツ 病	2月12日	10	0	6.6	0	17	7
				3月11日	15	0	7.1	0	18	6
				7月15日	30	10	12.5	0	24	0
				9月14日	30	20	12.5	0	24	0
20	♀	59	低 血 圧 症	4月27日	40	0	16.2	9	11	4
				6月3日	20	5	14.6	2	20	2
				8月14日	20	5	15	0	24	0
21	♂	86	動脈硬化症	4月15日	80	0	12.2	2	10	12
				5月13日	20	10	10.4	0	24	0
				7月5日	20	10	10.4	1	23	0
				8月11日	30	10	20	0	23	1
				10月26日	30	0	7.8	1	21	2

(12)~(34) 成宮芳三郎「良導絡」19~141号

- 1961年～1967年
- (35)～(75) 成宮芳三郎「日本良導絡自律神經雜誌」
- 第13卷 8、9号(1968年)
- 第14卷 6号(1969年)
- 第15卷 2、3号(1970年)
- 第16卷 3、9、11、12号(1971年)
- 第17卷 4、5、6、8、11号(1972年)
- 第18卷 2、3、4、7号(1973年)
- 第19卷 4、5、9、10、12号(1974年)
- 第20卷 5、11号(1975年)
- 第22卷 2、5号(1977年)
- 第23卷 7、8・9、11、12号
- (1978年)
- 以上

Vol.24 No.1 本誌新春随想号11頁下史章先生の記事中、後半に Lasen という語が度々出てきますが、これは Laser の誤りですので謹んで訂正させて戴きます。